

# 聞きとりにくい防災無線を 防災ラジオでカバーを！



野網 義一 議員

防災訓練が今年は八幡地区であり、小学校の体育館で初めて避難所の開設訓練も実施されました。体育館も公民館の大広間も2階部分にありません。体育館は非常に暑く、プライバシーの関係で間仕切りの段ボールの中にも入ったがさらに暑かった。障がい者の避難はどうなるのか、暑さ対策は考えているのか。

有線放送が今年4月から業務停止になり、防災無線だけになった。天気の良い日でも聞きとりにくいことがあるのに台風や大雨等ではなおさらのこと。今注目を集めているのが建物や地下でも聞きやすいポケットベル（280MHz）波を利用した防災ラジオ。瑞浪市では、全世帯と希望する事業所に無料で防災ラジオを貸し出している。耳の不自由な人に対しては光と文字で知らせる機能もあるし、最新の情報は録音機能があっても聞き直すことが出来る。スイッチが入って無くても緊急情報は最大の音で流すことが出来るし、通常のお知らせはラジオ設定の音量で流れる。また、地域情報も流すことが出来る。

費用は、全額起債対象に、その内7割が交付税算入される。年間維持費も約800万円で検討するに値する。

## 町長

初めて避難生活を想定しながら訓練し、様々な問題・課題が出てきた。避難も1日2日ですめばいいが長期化する暑い時寒い時には大変な状況になる。冷暖房の効いた小学校の教室の利用も場合によっては必要になる。体育館が2階であったので、足腰の弱い人には1階の利用も考慮する必要があった。要援護者は、ふれあいカード記入世帯が348あり、避難方法も含め検討します。



▶瑞浪市の防災ラジオ（左）通常、（右）聴覚障がい者用（文字表示）



プライバシーは守られるが、夏は風が通らず暑い「簡易間仕切 暖ボール畳」

防災ラジオについては財源的問題もあり十分に検討します。

# なんとかならないか 美観を損ねる飼料米

近年ヒエ混じりの田んぼが目立つようになってきた。ヒエ混じりというよりヒエを作っているのかと勘違いするほどで、美田とはいいたくない。

飯米ではなく飼料米として作られているということ、出来るだけ手間を省いた結果があらわれている。

隣で主食米を一生懸命作っている田にもヒエの種が飛び、困っている。

飼料米として作るなら多収穫品種の導入と団地化が必要ではないか。

## 町長

米の消費量が減少する中で飼料用米が他の転作物より交付単価が高いことから多くの農業者が取り組んでいる。平成28年度は59畝で水田面積の8.5%になる。郡内JAでは主食用を飼料米として試験的にヒエメボレを作付けしている。反当たり7.7俵で8万5千円になる。今後、ブロックロー



米よりヒエの方が目立つ飼料米田